

住宅産業フォーラム 21

平成26年度

企画書

平成26年4月

一般財団法人 大阪科学技術センター



## 目 次

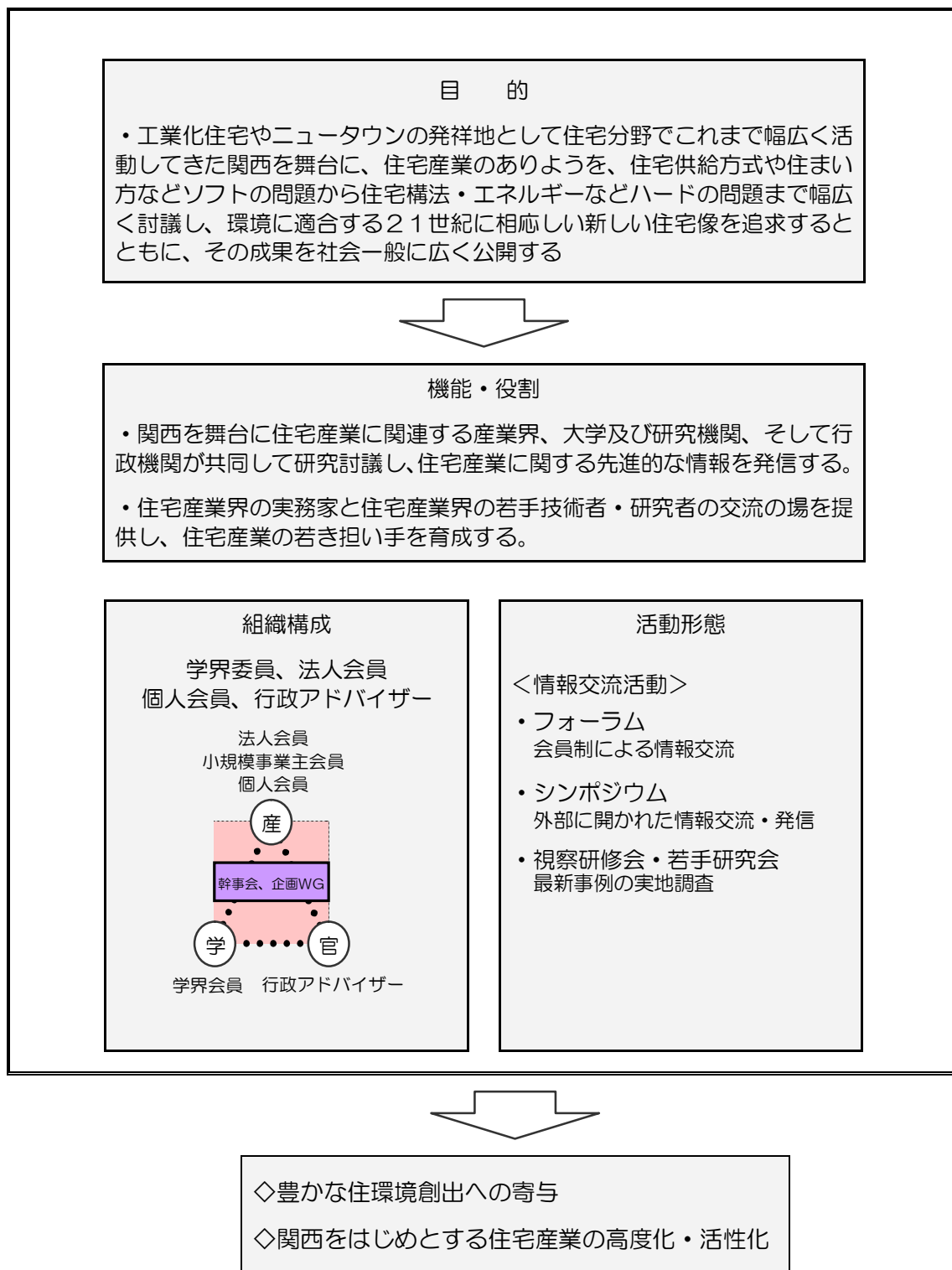
<b>I 平成26年度事業企画</b>	1
1. 住宅産業フォーラム21の活動スキーム	3
2. 活動概要	4
3. 体制	6
4. 事業期間	7
5. 参加料	7
6. 事務局（お申し込み、お問い合わせ先）	7
<b>II 平成25年度活動報告</b>	9
1. 事業内容	11
<b>III 活動のあゆみ</b>	18
1. 活動のあゆみ	20



## I. 平成26年度事業企画



## 1. 住宅産業フォーラム21の活動スキーム



## 2. 活動概要

### (1) 住宅産業フォーラム21の趣旨・役割

関西は古くから住宅の先進地域であり、産業、行政、研究教育の各分野において、新規の取り組みに強い関心と意欲を示してきた。さらには、将来の住宅や住宅産業のあり方についても、関西を舞台として研究討議し、その成果を事業に生かすとともに、先進的な情報を外部に発信していく取り組みが必要である。住宅産業フォーラム21はこのような趣旨を持って平成8年に発足した。

本フォーラムではこのような認識から、関西を舞台にして住宅産業に関連する産・学・官の自由な交流の場を提供する。そして、様々な活動を通じて、内外における実効性のある研究情報を提供し、住宅産業で活動する若手の研究者、実務家、行政者の培養・育成者（インキュベーター）の役割を果たしていく。

住宅産業フォーラム21が目指している大きな将来目標は、端的に言えば、非常に複雑化・多様化・巨大化している今日の住宅産業を、居住者に安全と安心を確実に保証しながら、環境との共生の中で快適で利便な住まいを低コストで実現するような方向に構築することであると考えている。

### (2) 活動概要

今年度は本フォーラムの最終年度とし、「住宅産業のこれまでとこれからの住宅産業」をテーマにこれまでの活動を振り返り、情報収集活動を通じて、住宅産業の新たな方向性を展望する。

#### ①情報交流活動

##### ◇フォーラム

年間テーマに基づき、会員を対象に開催する。産・学・官ならびにメディア界の有識者により講演いただき、情報の蓄積を図るとともに知見を高める。

##### ◇シンポジウム

最終年度の総括として、産・学・官の有識者による総括シンポジウムを、一般公開で開催する。シンポジウムでは、これまでの活動を振り返った上で、将来の住宅産業のあり方について展望する。

##### ◇視察研修会

会員を対象に、参加メンバーの希望に添って見学先を設定し、普通では体験しにくい現場にて話を聞き、その場で研修・討論ができる視察研修会を開催する。

##### ◇若手研究会

現場レベルの知見を高めるとともに、研究会の活動を通して会員企業の若手社員を育成することを目的とする。メンバーの関心のある住宅産業の重要テーマについて議論を深めるとともに、メンバー間の交流を推進する。

#### ②フォーラム企画・運営

##### ◇幹事会

法人会員や学界会員及び、小規模事業主会員と個人会員の代表2名から構成され、本フォーラムの運営に関し必要な事項について協議又は調整をする。また、各種活動を通して、今後の方向性について検討していく。



◇企画WG

本フォーラムの各種活動について、年度テーマに即した企画・立案を行う。

(3) スケジュール

	H26									H27		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フォーラム・シンポジウム (4回/年)			○ 6/5 第1回			○ 9/26 第2回		○ 11/21 第3回			○ 2/10 シンポジウム	
視察研修会・若手研究会 (2~3回/年)				○ 第1回			○ 第2回		○ 第3回			
幹事会 (2回/年)			○ 6/5 第1回								○ 2/10 第2回	
企画WG (5回/年)	○ 第1回		○ 第2回		○ 第3回			○ 第4回		○ 第5回		

※開催月については講師や見学先との調整で変更することがある。

各種活動で取り上げる具体的な課題は、企画WG、参加メンバーと調整しながら決定していく。

【課題候補】

- ・住宅脱産業化の時代
- ・住宅利用者からの構想力
- ・過去の分譲住宅地のまちづくり
- ・住宅産業のこれまでとこれからの住宅産業

### 3. 体制

#### (1) 名称

住宅産業フォーラム21

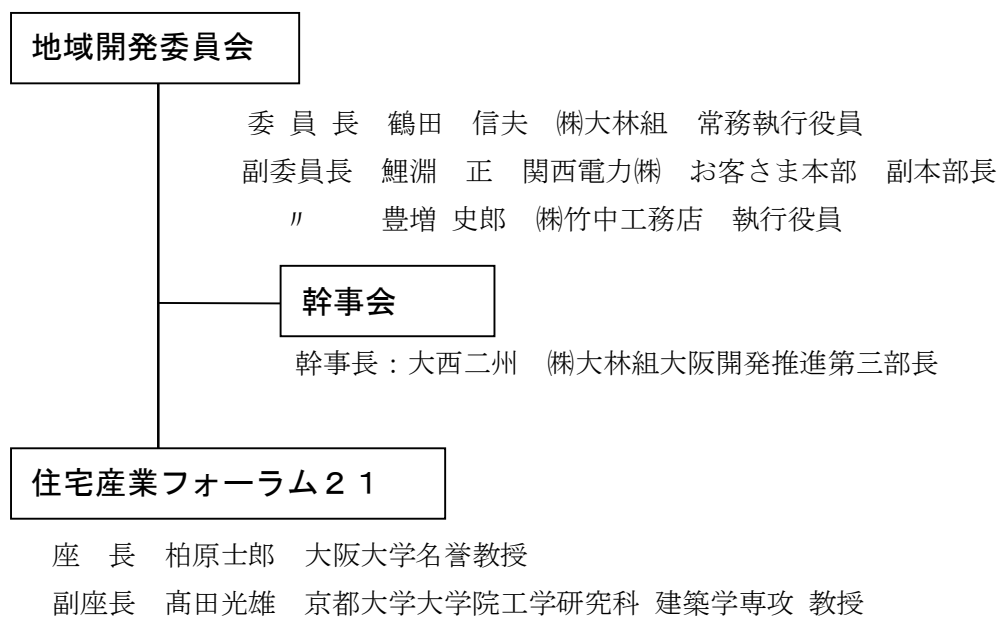
#### (2) 委員構成

座長 柏原 士郎 大阪大学名誉教授

副座長 高田 光雄 京都大学 大学院工学研究科 建築学専攻 教授

産業界 11 社、学界 4 名、官界 14 名、団体 1 名、個人 9 名 (平成 26 年 3 月現在)

#### (3) 体制図



#### (4) 会員制度

##### ① 学界会員

大学等の学識経験者で、本フォーラムの指導と運営に当たる。

##### ② 法人会員

住宅産業関連の企業で、本フォーラムの中核としてフォーラム、シンポジウム、視察研修会、若手研究会に参加するとともに幹事会に参加し、運営にも携わる。

対 象：住宅産業に関連する、または関心を示す企業

登録委員 2 名 (内 1 名は幹事会委員) ・ 研究委員 2 名 (原則 40 歳まで)

※登録委員及び研究委員は、技術系・企画系など異なる職種から各 1 名登録

活 動：フォーラム、シンポジウム、視察研修会への参加(登録委員・研究委員の他複数名)

幹事会への参加、研究委員による若手研究会への参加

### ③小規模事業主会員

住宅産業関連の小規模事業主で、本会のフォーラム、シンポジウム、視察研修会に参加できる。

対 象 : 住宅産業関連の小規模事業主

登録委員 2 名

※小規模事業主会員については、「中小企業基本法」で定められている「小規模企業者」の定義に準ずる事業者を対象とする。

活 動 : フォーラム、シンポジウム、視察研修会への参加（登録委員のみ参加可能）

幹事会には、小規模事業主会員および個人会員の中から 2 名を委員として選出し、その者が参加する。

### ④個人会員

個人で、本会のフォーラム、シンポジウム、視察研修会に参加できる。

対 象 : 個人または住宅産業関連の個人事業者

活 動 : フォーラム、シンポジウム、視察研修会へ参加(本人のみ参加可能)

幹事会には、小規模事業主会員および個人会員の中から 2 名を委員として選出し、その者が参加する。

### ⑤行政アドバイザー

国及び地方自治体の住宅関連部門の方々に参加いただき、情報提供・情報交換など様々なアドバイスをいただく。

## 4. 事業期間

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

## 5. 参加料

- ・法人会員 A… 300,000 円/年（税抜き）
- ・法人会員 B… 200,000 円/年（税抜き）
- ・小規模事業主会員… 30,000 円/年（税抜き）
- ・個人会員… 6,000 円/年（税抜き）

※法人会員 B については「中小企業基本法」における「中小企業」の定義に準ずる事業者を対象とし、小規模事業主会員については同法における「小規模企業者」の定義に準ずる事業者を対象とする。

## 6. 事務局（お申し込み、お問い合わせ先）

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号

一般財団法人大阪科学技術センター 技術振興部 川口、島袋

TEL: 06-6443-5320 FAX: 06-6443-5319

E-Mail: m.kawaguchi@ostec.or.jp, shima@ostec.or.jp



## Ⅱ. 平成25年度活動報告



## 年間テーマ：「不動産的側面から見た住宅産業」

### (1) フォーラム

#### ①第1回「『中古流通市場における新しい事業スキーム～不動産市場をいかに活用しきるか～』

21世紀の日本の復活に向けた21の国家戦略プロジェクトの中に、これまでの新築重視の住宅政策からストック重視の住宅政策への転換が明記されている。中古住宅流通市場については、建物検査・保証、住宅履歴情報の普及促進等の市場環境整備・規制改革、老朽化マンションの再生等、多面的に取り組まれているが、全住宅流通量（既存流通＋新築着工）に占める割合は約13.5%（平成20年度）にしかならない。この割合は、欧米諸国の約7割～9割と比べて低い値であり、現在の中古流通市場に対する取組自体が未成熟であるとも言えるが、一方で、現在の延長線上の事業展開で解決できるとも考えにくい。

不動産事業スキーム視点から見た場合に、白地キャンパスに絵を書く新規開発と、既存建物が存在し過去からの歴史を受け継ぐ形で事業を進めるのでは、異なる事業ノウハウが求められることは明らかである。

現状として、不動産上の諸条件が比較的恵まれている市場を中心に、中古住宅流通が活性化していると考えられ、根本的な意味でのストック市場を活用し切れているかは疑問が残る。

第1回フォーラムでは、中古流通市場の活性化について「不動産市場を活用しきる」ために、今後の事業展開に何が求められるのか、具体的に現場で実践されている事業スキームについても学び、議論を行った。

第1回 平成25年 6月25日(火) 13:30～17:00 (大阪科学技術センター401号室)	1. 基調講演 「不動産事業分野から見た中古流通市場の現状と今後の展開について」 大阪商業大学教授 西嶋 淳氏（元日本不動産研究所） 2. 事例報告1 「京都の東山エリアにおける老舗・邸宅の再生活用スキームの事例」 エス・エスコンサルグループ株式会社 代表取締役 安井 隆廣氏（元住友信託銀行不動産部）事例報告 3. 討論・質疑応答※以下の3テーマを参加者、講師を交え討論。 コーディネイタ 赤崎 盛久氏（企画WGリーダー）、 生川 慶一郎氏（企画委員） ①不動産市場における中古流通市場・新築供給 ②中古流通市場の形成について ③中古流通市場において求められる事業方針（資質）とは？（出席者40名）
--	--

#### ②第2回「家族像の変容とすまいの変化 -シェア居住に着目して-

人口減少、少子高齢化、晩婚化・未婚化、離婚率や非正規雇用の増加、価値観・ライフスタイルの多様化が進む中、標準的な核家族世帯は減少し家族像は変容している。住宅産業においては、家族像の変容を配慮した住まいの提案が今後求められていくだろう。

第2回フォーラムでは、まず、家族社会学からみた家族像の変容、そしてそれに伴う住まい方の変化についての講演を行い、続いて、多様化する住まい方のひとつであるシェアハウスに着目し、住まい手像や事業の仕組みなどをシェアハウスの現状についての講演を行った。

パネルディスカッションでは、参加者の意見も交えながら、シェアハウスの現状と課題への理解を深め、家族像の変容に対して住宅産業が取り組むことなどについて議論を行った。

<p>第2回 平成 25 年 10 月 15 日 (火) 13 : 30 ~ 17 : 00 (大阪科学技術センター401 号室)</p>	<p>1. 講演 1 「家族像の変容とそれともなう住まい方の変化」 日本大学准教授 久保田裕之氏</p> <p>2. 講演 2 「シェア住居とは何か」 株式会社ひつじインキュベーション・スクエア 代表取締役 北川 大祐氏</p> <p>3. パネルディスカッション：講師を交えての討論 コーディネイター 赤崎 盛久氏 (企画 WG リーダー)、 伊丹 絵美子氏 (企画委員)</p> <p style="text-align: right;">(出席者 40 名)</p>
---	--

### ③第3回「住まいの最新エネルギー技術を背景として、エネルギーの見える化による、これからの住まいと暮らしを考える。」

太陽光発電システム、HEMS、蓄電池等による、創エネ、省エネ、蓄エネの新しいエネルギー設備機器システムの住生活に於ける活用技術に関し、「エネルギーの見える化」を基軸に、エネルギーをマネジメントする様々な未来の姿が想定できるようになってきた。結果として、ライフスタイルの変革にまで及ぶ、住まいと暮らしの新しい姿が想定できるものと考えられる。またその背景として、点としての「スマートハウス」から、近い将来の「面」としての「スマートシティ、スマートコミュニティ」という、最新エネルギー技術の実証実験が進められている。その経緯にも注目しながら、第3回では、「エネルギーの見える化・エネルギーをマネジメントする」ことによる、快適な社会を目指すための現状の課題と期待する効果について、社会的・文化的価値を尊ぶパッシブな住まいと暮らしとの対比も考慮しながら、これからの住まいと暮らしのあり方について議論を行った。

<p>第3回 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 00 (大阪科学技術センター403 号室)</p>	<p>1. 基調講演 「エネルギーの情報化によるスマートコミュニティの実現」 京都大学大学院情報学研究科 知能情報学専攻 教授 松山 隆司 氏</p> <p>2. 話題提供・全体討論</p> <p>① エネルギーの見える化で効率活用提案 「はびeみる電」と「けいはんな実証実験」 西村 陽氏 (関西電力株式会社 お客様本部 営業計画グループ 担当部長)</p> <p>② スマートエネルギーネットワークへの取り組み 松本 将英氏 (大阪ガス株式会社 エン지니어リング部 エネルギー 電力ソリューションチーム マネージャー)</p> <p>③ 暮らしのサービスプラットフォームとしてのスマートハウスの提案 吉田 博之氏 (大和ハウス工業株式会社 地球温暖化防止研究グループ主任研究員)</p> <p>④ 全体討論 「エネルギーの見える化で変わるか？住まいと暮らし」 (※「Yes, No, Why ゲーム」も挿入し会場全体で討論) ファシリテーター 兵藤幸治 (BEEGL 研究所) (出席者 36 名)</p>
---	---



## (2) 公開シンポジウム「これからの住宅ストック・ビジネスを考える」

シンポジウムでは、ビジネスの観点から、住宅ストックの質への転換や具体的な活用方法について参加者と議論し、検討した。

<p>平成 26 年 1 月 31 日(金) 13:30~17:00 (大阪科学技術 センター 中小 ホール)</p>	<p>1. 基調講演 「今後の国の住宅ストック政策について」 国土交通省 住宅局 住宅生産課 住宅ストック活用・リフォーム推進官 松野 秀生 氏</p> <p>2. パネルディスカッション テーマ「住宅ストックビジネスの現場」 ～戸建住宅分野における既存住宅の流通現場からの課題提起～ コーディネータ：山崎古都子 氏（滋賀大学 名誉教授） パネリスト： 松野秀生氏（国土交通省） 赤崎盛久氏（住宅産業フォーラム 21 企画 WG リーダー） 竹内正人氏（神戸夙川学院大学） 伊丹絵美子氏（大阪大学） 生川慶一郎氏（京都市住宅供給公社）</p> <p style="text-align: right;">(出席者 101 名)</p>
---	---

## (3) 視察研修会

### ①第 1 回「大阪ガス実験集合住宅『NEXT21』新たなフェーズの取り組み」

大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」では、第 4 フェーズ居住実験が、2013 年度から開始されており、「環境にやさしい心豊かな暮らし」をテーマに、人と人とのつながりの創出、人と自然の関係性の再構築、省エネ・スマートな暮らしを目指して、住まい・住まい方の検証が行われている。また次世代エネルギーシステムの実証実験に向けた改修もされており、現状について取材等視察を行った。

<p>第 1 回 平成 25 年 6 月 4 日(火) 10:00~11:45</p>	<p>大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」</p> <p>1. 「第 4 フェーズ居住実験概要の紹介」</p> <p>2. 現地見学</p> <p>(1) 「改修住宅(305 住戸、403 住戸)」 ～人のつながりを創出し、自然と共に住まう住戸～</p> <p>(2) 「エネルギーシステム」 ～燃料電池(SOFC)住戸分散設置とエネルギー融通他～</p> <p style="text-align: right;">(出席者 16 名)</p>
---	---

### ②第 2 回「『島原 角屋』『長江家住宅』『平成の京町家』の視察と現存する今も日本に唯一残る揚屋の遺構を訪ねる」

京都・島原は寛永 18 年の開設以来、公許の花街として発展し、中でも、「角屋」の建物は揚屋建築の唯一の遺構として、国の重要文化財の指定を受けている。「長江家住宅」は、京町家の特徴とされる木造伝統軸組工法で、何本もの通し柱が直接母屋、棟木を支持し、大屋根を支える軽快な軸組を特徴としており、過剰な意匠を排した合理的な京都特有の美意識が感じられる。「平成の京町家」は、最近話題

のエコ住宅の良さと伝統的な京町家の良さを両立したもので、京都のまちや自然と共生する住まいと住まい方を提案するもので、京都市が平成 22 年度から普及促進に取り組んでいる。今回は、京町家の伝統が息づく京都での現代的解釈と過去の良き事例について取材等視察を行った。

<p>第 2 回 平成 25 年 12 月 13 日(金) 13 : 10 ~ 17 : 00</p>	<p>1. 島原 角屋「角屋もてなしの文化美術館」 ・島原・角屋の揚屋建築の説明及び角屋二階部分の見学 ・角屋一階部分の見学</p> <p>2. 長江家住宅 北棟主屋、表屋造の主屋南棟、離れ座敷、蔵などを見学</p> <p>3. 平成の京町家 モデル住宅展示場「KYOMO」 京都の企業 4 社によるモデル展示場見学</p> <p style="text-align: right;">(出席者 19 名)</p>
---	---

#### (4) 若手研究会

「Beauty&Diet」レディスシェアハウス、「SPACEGREEN SUITA ShareHouse」

大阪府吹田市内のシェアハウスを 2 件、視察した。

<p>平成 26 年 2 月 14 日(金) 14 : 30 ~ 17 : 00</p>	<p>1. 「Beauty&amp;Diet」レディスシェアハウス(大阪府吹田市南吹田 5 - 3 - 27) シェアハウス運営事業者 株式会社ブロードエンタープライズ 担当者による説明</p> <p>2. 「SPACEGREEN SUITA ShareHouse」 (大阪府吹田市内本町 1 - 2 3 - 7) シェアハウス運営事業者 株式会社 総合環境 担当者による説明</p> <p style="text-align: right;">(出席者 7 名)</p>
--	--

### (5) 幹事会

開催日	内 容
第1回 平成25年 6月25日(火) 10:30~12:00 (大阪科学技術センター702号室)	1. 平成25年度の活動体制について 2. 第1~3回フォーラム企画内容について 3. 第1~2回視察研修会について 4. その他
臨時 平成25年 11月15日(金) 11:00~12:00 (大阪科学技術センター702号室)	1. 平成26年度の活動方針について(審議) 2. その他(公開シンポジウムなど)
第3回 平成26年 1月31日(金) 10:45~12:15 (大阪科学技術センター702号室)	1. 平成25年度活動報告について 2. 平成26年度活動計画について 3. その他

### (6) 企画WG

(企画リーダー: 赤崎盛久建築研究所 所長 赤崎 盛久氏 個人1名、産業界3名、学界2名)

開催日	内 容
第1回 平成25年 4月17日(水) 13:30~15:00 (大阪科学技術センター704号室)	1. 第1回フォーラム企画について 2. その他各回の企画内容について
第2回 平成25年 7月29日(月) 10:00~11:30 (大阪科学技術センター304号室)	1. 第3回フォーラム企画について
第3回 平成25年 12月16日(月) 16:10~18:00 (大阪科学技術センター304号室)	1. 次年度の分科会テーマについて

## (7) ストック・ビジネス研究会

(主査：赤崎盛久建築研究所 所長 赤崎 盛久氏 個人1名、学界5名)

開催日	内 容
第7回 平成25年 4月17日(水) 15:00~17:00 (大阪科学技術センター704号室)	1. 伊丹氏よりこれまでの研究発表 2. 本研究会の目的について
第8回 平成25年 5月29日(水) 15:00~17:00 (大阪科学技術センター704号室)	1. 横田氏よりこれまでの研究成果発表 2. 本研究会の目的について
第9回 平成25年 6月19日(水) 15:00~17:00 (大阪科学技術センター704号室)	1. 竹内氏よりこれまでの研究成果発表 2. 本研究会の目的について
第10回 平成25年 7月12日(金) 15:00~17:30 (大阪科学技術センター304号室)	1. 赤崎氏よりこれまでの研究成果発表 2. 本研究会の目的について
第11回 平成25年 8月22日(木) 15:00~17:00 (大阪科学技術センター304号室)	1. 赤崎氏よりこれまでの研究成果発表(イギリスでの調査報告) 2. 平成25年度シンポジウム企画について
第12回 平成25年 9月19日(木) 15:00~17:00 (大阪科学技術センター304号室)	1. これまでの研究成果発表 2. 平成25年度シンポジウム企画について

<p>第13回 平成25年 10月28日(月) 18:00~19:30 (大阪科学技術センター304号室)</p>	<p>1. これまでの研究成果発表 2. 平成25年度シンポジウム企画について</p>
<p>第14回 平成25年 11月18日(月) 18:00~19:30 (大阪科学技術センター704号室)</p>	<p>1. これまでの研究成果発表 2. 平成25年度シンポジウム企画について</p>
<p>第15回 平成25年 12月16日(月) 18:00~20:00 (大阪科学技術センター704号室)</p>	<p>1. これまでの研究成果発表 2. 平成25年度シンポジウム リハーサル</p>
<p>第16回 平成26年 1月23日(木) 16:00~18:00 (大阪科学技術センター704号室)</p>	<p>1. 平成25年度シンポジウム 最終リハーサル</p>

### Ⅲ. 活動のあゆみ



## 第1年度（平成8年4月～平成9年3月）

### （1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回：①「阪神・淡路大震災復興について」

建設省近畿地方建設局 震災復興対策本部 副本部長 座間 愛知 氏

②「これからの住宅産業・課題と期待」

京都大学 工学部 建築学科 助教授 古阪 秀三 氏

第2回：①「震災後の住宅の復興状況と今後の取り組み」

兵庫県都市住宅部 部長 柴田 高博 氏

②「震災復興と住まい・まちづくり」

神戸大学 工学部 建設学科 教授 安田 丑作 氏

第3回：①「神戸東部新都心開発の方向について」

㈱安井建築設計事務所 大阪事務所 都市開発部長 柏原 孝治 氏

②「阪神大震災から見たガス供給と今後の課題」

大阪ガス㈱ 設備技術部 設備チーム 副課長 長谷 幸宣 氏

③「阪神大震災によるプレハブ住宅の被害状況について」

大和ハウス工業㈱ 技術本部 次長 大内 照明 氏

第4回：①「震災と都市耐震診断について」

京都大学 防災研究所 助教授 鈴木 祥之 氏

②「兵庫県南部地震による住宅建材被害実態調査報告」

㈱クボタ教育センター 代表取締役 長尾 正三 氏

③「阪神・淡路大震災被災「既存不適格住宅」再建の取組 ～主として建築行政の観点から～」

神戸市住宅局 建築部 指導課長 鈴木 三郎 氏

### （2）シンポジウム [開催回数：1回]

第1回：平成9年3月24日 開催

テーマ：「震災に住宅関連産業はどのように対応したのか？ ～直後の対応の実態とその教訓～」

①第1部 「対応と教訓」に関する報告

②第2部 パネルディスカッション

### （3）視察研修会 [開催回数：1回]

第1回：大阪ドーム及び大阪ガス実験集合住宅NEXT21



## 第2年度（平成9年4月～平成10年3月）

### （1）フォーラム〔開催回数：3回〕

第1回：「住宅産業の今後の課題」

建設省 住宅局住宅生産課 木造住宅振興室長 杉山 義孝 氏

第2回：「今後の住宅建材産業関連施策について」

通産省 生活産業局住宅産業窯業建材課 企画班長 片岡 進 氏

第3回：「規制緩和による21世紀住宅産業」

郵政省 大臣官房施設部建築企画課 建築審査官 斉藤 隆司 氏  
研究会A、Bの報告並びに北欧住宅事情調査報告

### （2）研究会〔開催回数：13回（研究会A9回、研究会B5回、うち共同研究会1回）〕

○共同研究会A・B：① 本年度の趣旨・計画の説明

② 調査研究会の話題の提供とその検討

#### ○調査研究会A

#### ○調査研究会B

第1回：調査研究会テーマの検討

第2回：テーマ「居住関連サービス業者に聞く」

第3回：テーマ「高齢者・障害者の住ニーズ ～脊損の一般的理解と住宅改善～」

第4回：テーマ「住宅設備メーカーに聞く」

第5回：テーマ「都市型集合住宅のニーズ」

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：OAPレジデンスタワー

第2回：大阪府営 河内長野木戸住宅

### （4）海外事情調査〔開催回数：1回〕

「北欧住宅産業事情調査団」派遣

期 間：平成9年9月11日～9月20日

訪問国：フィランド、スウェーデン、デンマーク

### 第3年度（平成10年4月～平成11年3月）

#### （1）フォーラム [開催回数：3回]

- 第1回：テーマ「住宅性能表示を中心とした問題」
- 第2回：テーマ「新しい住宅供給システムについて」
- 第3回：テーマ「21世紀の都市居住像」

#### （2）シンポジウム [開催回数：6回]

- 第1回：テーマ「住宅情報からみた居住者ニーズ」
- 第2回：テーマ「住宅とPL法」
- 第3回：テーマ「リフォームの現状」
- 第4回：テーマ「日本の住宅生産システムと輸入住宅」
- 第5回：テーマ「健康住宅とは、住めば健康になる住宅？それとも病気になりにくい住宅？」
- 第6回：テーマ「萱島・新町家プロジェクト／－K（萱島）方式の可能性を探る  
～定期借地権・コーポラティブ・タウンハウス～」

#### （3）視察研修会 [開催回数：3回]

- 第1回：神戸市東部新都心
- 第2回：クリエイティブTOWN岡山（CTO）  
（株）遠藤剛生建築設計事務所 遠藤 剛生 氏
- 第3回：萱島・新町家プロジェクト  
（株）ヘキサ 取締役 安原 秀 氏  
大阪府住宅供給公社 熊谷 邦夫 氏

### 第4年度（平成11年4月～平成12年3月）

#### （1）フォーラム [開催回数：3回]

- 第1回：テーマ「少子化・高齢化社会を考慮した建築生産システム ―介護保険時代の住宅政策―」
- 第2回：テーマ「住宅の性能表示と品質確保 ～消費者の視点から見た現在の住宅～」
- 第3回：テーマ「住宅生産と情報化 ～情報化の将来～」

#### （2）シンポジウム [開催回数：5回]

- 第1回：テーマ「介護保険時代の住宅産業 ～介護保険制度は住宅をどう変えるのか？～」
- 第2回：テーマ「介護保険時代の住宅産業 ～在宅福祉における住宅改造と介護現場の現状～」
- 第3回：テーマ「住宅の性能表示と品質確保 ～住宅性能表示制度の動き～」
- 第4回：テーマ「住宅の性能表示と品質確保 ～住宅生産者と消費者の視点から～」
- 第5回：テーマ「住宅生産と情報化 ～情報化の現状～」（第3回視察・研修会と同日開催）

#### （3）視察研修会 [開催回数：3回]

- 第1回：次世代住宅「ふれつくすコート吉田」
- 第2回：「ソワール新檜尾台」
- 第3回：「大阪市立 住まい情報センター」（第5回シンポジウムと同日開催）

## 第5年度（平成12年4月～平成13年3月）

### （1）フォーラム〔開催回数：3回〕

- 第1回：テーマ「集合住宅団地の大規模リフォーム」
- 第2回：テーマ「これからの住宅産業と情報化」
- 第3回：テーマ「21世紀の住宅産業を展望する」

### （2）シンポジウム〔開催回数：4回〕

- 第1回：テーマ「集合住宅団地の大規模リフォーム」
- 第2回：テーマ「ストック活用とリフォーム産業」
- 第3回：テーマ「住宅ならびに住設機器の情報化」
- 第4回：テーマ「住宅生産システムの情報化」

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

- 第1回：同潤会江戸川アパート・代官山再開発地区・同潤会青山アパート
- 第2回：奈良市奈良町・橿原市今井町（奈良市都市計画部・橿原市今井町町並保存整備事務所）

## 第6年度（平成13年4月～平成14年3月）

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

- 第1回：テーマ「ライフスタイルとしての市街地居住」
- 第2回：テーマ「ライフスタイル戦略から見た（設計）計画課題」
- 第3回：テーマ「転換期の自治体行政と住宅政策―住宅マスタープランを中心として―」
- 第4回：テーマ「公団・公庫の役割見直し問題と自治体住宅政策」

### （2）シンポジウム〔開催回数：3回〕

- 第1回：テーマ「都市居住の新潮流」
- 第2回：テーマ「関西大都市の都市再生と住まい・まちづくり」
- 第3回：テーマ「居住地の魅力」

### （3）研究会〔開催回数：5回〕

- 第1回：研究会のあり方等に関する議論
- 第2回：「集合住宅の魅力探し（集まって住むこと）」に関する議論
- 第3回：「ローレルスクエア登美ヶ丘の概要～これからの集合住宅開発の視点～」
- 第4回：「コーポラティブハウスのABC」
- 第5回：「ユーコートの概要」

### （4）視察研修会〔開催回数：2回〕

- 第1回：「ガーデンハイツ加美」
- 第2回：「大和ハウス工業(株) 総合技術研究所」

## 第7年度（平成14年4月～平成15年3月）

### （1）フォーラム〔開催回数：2回〕

- 第1回：テーマ「住宅構法とモジュールの規格統一は何故できないのか～現状問題を探る～」
- 第2回：テーマ「次世代のエネルギーシステム」

### （2）シンポジウム〔開催回数：4回〕

- 第1回：テーマ「新築住宅着工70万戸時代の読み方」
- 第2回：テーマ「少子高齢時代の家族と住まいー新たな分析視角の提起ー」
- 第3回：テーマ「次世代の省エネルギー住宅」
- 第4回：テーマ「地球環境時代へ向けた住宅産業の新展開」

### （3）視察研修会〔開催回数：3回〕

- 第1回：「紀泉ふれあい自然塾」（大阪府泉南）
- 第2回：「スカイオアシス（屋上緑化）」（大阪市）、「くずはタワーシティー」（大阪府枚方市）
- 第3回：「高齢化社会での住宅」エルホーム芦屋（兵庫県芦屋市浜町12-3）

### （4）研究会〔開催回数：5回〕

- 第1回：「グランドメゾン晴明丘／グランドメゾン天王寺小橋町」
- 第2回：『ラグザ大阪レジデンス』の開発と分譲について」
- 第3回：「六甲アイランドCITY『イーストコート11番街』～メディケアサービスマンション」
- 第4回：「集まって住むこと」の魅力と課題について分析・討議
- 第5回：「アーバネックス三条」

## 第8年度（平成15年4月～平成16年3月）

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

- 第1回：テーマ「関西圏の住宅マーケットを読む」
- 第2回：テーマ「地球環境時代と住まい手の意識変化」
- 第3回：テーマ「～住宅産業の新潮流～建築家システムと住宅産業」
- 第4回：テーマ「省エネルギーへの社会の取り組みと住宅機器開発の方向性」
- 第5回：テーマ「～住宅産業の新潮流～ストック市場への挑戦」

### （2）視察研修会〔開催回数：2回〕

- 第1回：「アーベインなんば（大阪市浪速区）」「アーベイン中之島西（大阪市福島区）」
- 第2回：「住まいのデパート『ペンタくん』多摩センター店」（東京都多摩市）  
「マークスプリングス」（神奈川県横浜市）

### （3）研究会〔開催回数：5回〕

- 第1回：平成15年度活動内容についての議論
- 第2回：「NEXT21」見学
- 第3回：取材調査メンバー及びスケジュール等の議論
- 第4回：来年度活動についての議論
- 第5回：年間活動報告についての議論

## 第9年度（平成16年4月～平成17年3月）

平成16年度は、前年度のテーマの一つである「住宅産業再生への道」に引き続いて取り上げ、今後の住宅産業の行方を探る取り組みを行った。

フォーラム、シンポジウム、視察研修会、研究会の他に、行政等の住宅関連制度の調査を行い、各活動から得られた情報・知見を踏まえ、企画幹事会の場で住宅産業の重要課題を検討した。抽出された重要課題については、フォーラム、シンポジウム、視察研修会などの各活動にフィードバックし、さらに議論や検討を深めた。

### （1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回：「住まいと防犯とセキュリティシステム」

第2回：「他産業からみた住宅産業の姿」

第3回：「宅建業・工務店の新しい潮流」

第4回：「都心賃貸住宅の新しい形とマンスリーマンション」

### （2）シンポジウム [開催回数：1回]

テーマ「震害を受けない住宅をめざして」

### （3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：「都市基盤整備公団総合研究所技術センター施設」、「アクティ汐留」、

「東雲キャナルコートCODAN」

第2回：「国立国際美術館」、「関西電力株式会社大阪中之島本社ビル」

### （4）研究会 [開催回数：5回]

平成16年度は参加企業の若手社員に研究委員として参加して頂き、「住まいづくりの新しい動きと、団塊ジュニア世代の住宅志向」をテーマに、各種調査研究活動を実施した。また、住宅に関わる多様な問題点・課題について、研究会メンバーでディスカッションを行い、討議を通じて、メンバーの問題意識の明確化と共有、メンバー間のコミュニケーションが促進された。

## 第10年度（平成17年4月～平成18年3月）

住宅産業フォーラム21創立10年の節目を迎えた平成17年度は、これまでの軌跡を振り返り、総括するとともに、今後の住宅産業の行方を探る取り組みを行った。

住宅産業界では、社会的な経済状況の変化や少子高齢化やライフスタイルの多様化による顧客ニーズの変化、エネルギー環境の変化などの技術面での変化により様々な対応に迫られている。住宅着工件数の低下が進む中で、新たな住宅市場を見据えた住宅産業の発展の方向性を見出す必要がある。

近年の技術の進展に伴い、住生活の考え方にも変化が見受けられるが、その代表的な課題が地球環境問題であると思われる。「地球環境と住生活エネルギー再考」を掲げ、21世紀に於ける、ストック時代の住宅像を論議した。

フォーラム、シンポジウム、視察研修会、研究会の他に、行政等の住宅関連制度の調査を行い、各活動から得られた情報・知見を踏まえ、企画幹事会の中で住宅産業の重要課題を検討した。抽出された重要課題については、フォーラム、シンポジウム、視察研修会などの各活動にフィードバックし、さらに議論や検討を深めた。

### （1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回：「地球環境時代における住生活エネルギーと住まい方の再考」

第2回：「ライフスタイルの多様化と住宅産業」

第3回：「行政から見た住宅産業の課題と展望～景観とまちづくり～」

第4回：「住宅産業の新潮流～さきがけを、住まいづくりの原点から再考する～」

### （2）シンポジウム [開催回数：2回]

第1回：「日本の住宅産業はどのように発展してきたか」

第2回：「これからの10年の住宅産業を展望する」

### （3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：「トヨタアトリスパーク」、「トヨタ未来住宅」、「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」  
「愛知万博（長久手会場・瀬戸会場）」

第2回：「東洋陶器株式会社（北九州工場）」、「積水ハウス北九州街づくり」

### （4）研究会 [開催回数：4回]

- ・(株) デザインクラブアレンジスタジオの見学および同社代表取締役小川千賀子氏へのヒアリング
- ・積層の家 建築家 大谷氏自邸（神戸市 元町）の見学
- ・「LOHAS 団塊世代 団塊ジュニアとLOHASは関係があるか？」の聴講

## 第11年度（平成18年4月～平成19年3月）

平成18年度は、これまでの運営形態を踏まえ、フォーラム形式にて、現在生じている諸問題について、識者や関係者等の参加による、活発な討論の場を提供した。

### （1）フォーラム〔開催回数：3回〕

第1回：「住生活基本法と住宅産業」

第2回：「省エネルギー住宅・次世代エネルギー最前線」

第3回：「超高層住宅に代表される都市居住の地域コミュニティー」

### （2）シンポジウム〔開催回数：2回〕

第1回：「住宅産業フォーラム21 10周年シンポジウム in Tokyo」

テーマ：「これからの10年—住宅産業を展望する」

第2回：テーマ「循環型社会を実現する技術と社会システム」

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：パソナ02、東京ミッドタウン、六本木ヒルズ、三鷹マンション、天命転地住宅、サンシティ横浜

第2回：ビオール大阪大手前タワー、グランドメゾン大手前タワー

### （4）研究会〔開催回数：2回〕

第1回 討議：今年度の活動方針

第2回 講演：「東京あるきテクトについて」 東京あるきテクト 代表 齊藤 理氏

### （5）企画幹事会〔開催回数：7回〕

- ・住宅産業フォーラム21の方向性や活動内容の企画立案・検討
- ・年度テーマに即した課題の抽出

## 第12年度（平成19年4月～平成20年3月）

2005年11月に端を発した耐震構造偽装事件は、生活者を不安の坩堝に落とし入れるとともに、建築・住宅産業界の仕組みと建築士の信頼を喪失させた事件であった。

これを受けて当フォーラムでは、平成19年度の年間テーマを「住まいの安全・安心」とし、いかにすれば生活者が安全・安心な住宅を手に入れられるか、また建築・住宅産業界は信頼回復に向けてどう取り組んでいくべきかということについて、幅広く議論した。

また、住まいや暮らしの中で、『健康問題』『エネルギー問題』も大きなテーマと考え、積極的に取り組んだほか、暮らし方や住まい方等の住教育の重要性にも注目し、事例研究を行った。

### （1）フォーラム〔開催回数：3回〕

第1回：「これからの建築確認検査制度と住まいの安全・安心を考える」

第2回：「住宅産業における地球温暖化対策」

第3回：「住宅産業と住教育 - 生涯学習としての住まい学習」

### （2）シンポジウム〔開催回数：2回〕

第1回：「安全安心な住宅を手に入れる」

（社）日本建築材料協会が開催する「けんざい2007」において開催した。

第2回：「地震を知って震災に備える」

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：京都 まちなかこだわり住宅のモデルハウス視察

第2回：ハウススクエア横浜 大和ハウス展示場

### （4）研究会〔開催回数：3回〕

第1回：大阪での地域資源を見直す

第2回：大阪での地域資源を見直すⅡ（岸和田地区）

第3回：19年度総括と20年度の方向性検討

### （5）企画幹事会〔開催回数：8回〕

・住宅産業フォーラム21の方向性や活動内容の企画立案

・年度テーマに即した課題の抽出



## 第13年度（平成20年4月～平成21年3月）

平成20年度はテーマを『住宅産業の新潮流』とし、住宅産業の原点に帰った上で、あらためて新しい住宅産業の萌芽を探していった。一つには萌芽しつつある住宅産業の新しいビジネスモデルにスポットを当て、また、社会システムの変革として、建築の制度の改革が、どのような思いで、どのように変わっていくのかを見ていった。

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

第1回：「住宅産業の新しい潮流－住宅産業の原点と萌芽」

第2回：「改正建築士法と建築士に期待される役割」

第3回：「住宅産業の新しい潮流－住まい手にどう応えるか」

第4回：「住宅産業と住教育－住宅産業が果たす役割－」

### （2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ「住宅・建築生産の歴史に学ぶ持続可能性」

長期優良住宅（200年住宅）普及促進法が施行され、持続可能な住まいづくりに対する関心が高まり、ストック重視の価値観が広がっているが、これらの動向は必ずしも新しいものとはいえない。そもそも、伝統木造建築技術は、循環型生産システムに支えられた持続可能性を備えていた。また、フロー重視からストック重視への移行は、日本の歴史の中で実は過去にも起こった事柄であった。持続可能な住まいづくりを進める上で、住宅・建築生産の歴史に学ぶべきものは少なくない。このシンポジウムでは、中井家大工支配の変遷を中心に、住宅・建築生産の歴史を学び、今後の持続可能な住まいづくりのあり方を考えてみた。

### （3）視察研修会〔開催回数：3回〕

第1回：軽井沢地区 視察および事例研究

・朝吹山荘（ヴォーリス設計 移築）夏の家（レーモンド設計 移築）

・脇田邸、森の中の小さな別荘（吉村順三設計）星野リゾートの環境事例研究

・軽井沢での別荘建築の事例研究ほか

第2回：東リ株式会社 本社工場と研修センター

第3回：キッザニア甲子園

### （4）研究会〔開催回数：1回〕

第1回：箕面市桜ヶ丘 大正住宅博覧会地区

### （5）企画幹事会〔開催回数：6回〕

・住宅産業フォーラム21の方向性や活動内容の企画立案

・年度テーマに即した課題の抽出

## 第14年度（平成21年4月～平成22年3月）

年間テーマ：『長期優良住宅—生き残る住宅産業』

平成21年度は年間テーマを「長期優良住宅—生き残る住宅産業」とし、今までの歴史を振り返り、見えてくる先人の知恵を現代に活かしていくとともに、新しい住宅産業のあるべき姿を追求していった。具体的な活動としてはフォーラム・シンポジウム、視察研修会、研究会、企画幹事会を開催した。

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

第1回フォーラムでは、テーマを『「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保に関する法律」を消費者（生活）保護の仕組みとして成熟させるために！』とし、世界の住宅保証制度に学び、今回の法制度の再認識を図り、保険制度で賄う消費者（生活者）保護の仕組みのこれからを見据え、住宅供給者の立場から制度の円滑運営に向けた課題を議論した。

第2回～第4回フォーラムは、テーマを「長期優良住宅先導的の事業から見える住宅産業が果たす役割」とし、実際に長期優良住宅先導的モデル事業として採択された事業を紹介して頂いた。加えて、有識者より今後の住宅産業界についての予測や、今後のあり方などについても講演して頂いた。

### （2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ：「プレハブ企業型生産と地域型生産の融合システムはありうるか」

国土交通省の伊藤氏より、近年の住宅・建築の現状や、建築関連法規・制度の動きを踏まえた住宅の長寿命化、リフォーム・既存ストックの活用、省エネルギー・省CO<sub>2</sub>対策等の重要課題について、関連施策の内容、現状への対応、目指すべきところなどが網羅的に紹介・解説された。

また、当フォーラムの異座長から、住宅産業のあるべき姿や進むべき方向について、スクラップアンドビルドからサステナブルへの再編の中で、不動産概念の転換による住宅産業構造の再編成の可能性が示唆された。さらに、21世紀型ハウジングモデルの創出や開発途上国へのハウジング技術の輸出その他、新しい住宅産業の振興策が提言された。

最後に、住宅産業再編研究会からは、住宅産業の再編を視野に入れた、様々な担い手同士の組み合わせとその有効性、実現可能性などが示唆された。建築士が中心となって取り組むエリア・アーキテクト構想、生活者が関与する仕組みや万能インフィル産業の創出等、新たな展開にむけてユニークな提案がなされ、多くの関心を集めた。

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

伊佐家屋敷や一休寺等、江戸時代の優れた建築物を視察した。また、岡山県へ赴いた際は、地元の建築士の方より中庄団地や倉敷駅周辺の建築作品をご紹介頂き、その後は情報交流会を実施するなど、貴重な情報を得ることが出来た。

### （4）研究会〔開催回数：5回〕

研究会では「インフィル供給モデル」について検討を行った。また、検討を行うために、様々な方面の有識者から講演を賜ったほか、住まいのミュージアムや国立民族学博物館等を見学した。結果、非常に幅広い知識や考え方を知ることが出来た。

### （5）企画幹事会〔開催回数：6回〕

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、フォーラムや視察研修会等、個々の催しについても立案から実施まで検討を行った。

## 第15年度（平成22年4月～平成23年3月）

年間テーマ：『低炭素社会を見据えた長期優良住宅とビジネスモデルのこれから』

低炭素社会構築への道筋づくりや、住宅産業再編に関する提言研究等について活動を進めていき、一定の知見を得ることが出来た。具体的には、フォーラム・シンポジウム、視察研修会、若手研究会、企画幹事会を開催した。

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

第1回：「トップランナー方式で展開されている省エネ政策と省エネ対策新技术を考える」

第2回：「自然生態系に学ぶ住宅設備技術・地産地消の環境エネルギービジネスを考える」

第3回：「持続可能な未来に向けて住環境リテラシーのあり方考える」

第4回：「生活者の視点からの物づくり（住まいづくり）がもたらす世界を考える」

### （2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ：「低炭素社会に向けて住宅・建築とエネルギーのあり方考える」

本年度のシンポジウムは、住宅・建築の省エネルギー化について造形の深い、東京大学の坂本雄三教授を基調講演に招聘し、後半は法人会員企業により、低炭素社会を見据えた「人と住宅・建築物と住まいエネルギーの最新課題と今後の方向性」について、議論を行った。

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：「TOTO・DAIKEN・YKK AP コラボレーションショールーム」

第2回：「独立行政法人都市再生機構 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験」

### （4）若手研究会〔開催回数：1回〕

インフィルモデルの研究として、昭和時代に建てられた木造長屋を耐震改修した事例を視察した。また、昭和時代の建築物が多く立ち並ぶ昭和町界隈を併せて視察した。

第1回：「昭和町界隈および耐震シェルター『j. Pod工法』の視察」

### （5）企画幹事会〔開催回数：8回〕

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、フォーラムや視察研修会等、個々の催しについても企画・立案から内容の審議まで行った。

## 第16年度（平成23年4月～平成24年3月）

年間テーマ：『成熟社会の住宅産業維新』

平成23年度は、住宅産業について産業維新とも呼べる構造改革への道筋を探った。その中で、住宅産業の過去・現在・未来を問い直し、30年後の住まいづくりの構想を議論した。また、住宅産業フォーラム21のこれからの展開を議論するにあたり、会員企業各社の経営計画の調査を行った。その中で明らかになったことの一つは、各企業が多角的に事業を展開していることであり、しかもその多角化は高度成長時代の業容拡大のためだけでなく、生き残りをかけてのそれであること、そして新築からリフォームへのシフトや生活者の住まい方の変化などに代表される住宅市場の変化への対応であることが判明した。

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

第1回：「30年後の住まいづくり社会を構想するプロジェクト活動報告」

第2回：「住宅産業の過去・現在・未来を問い直すー企業の枠組みを超えてー」

第3回：「住宅産業は東日本大震災にどう対応したか、さらにどうすべきかー阪神・淡路大震災との違いを明らかにして、そして東海・東南海・南海自地震に備えるー」

第4回：「住宅産業フォーラム21のこれからの展開」

### （2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ：「成熟社会と住宅」

年間テーマ「成熟社会の住宅産業維新」の締めくくりとして本シンポジウムでは、日本社会が高齢化により変化を遂げていくことが予想されるなかで、新たに登場したサービス付き高齢者向け住宅の事例や高齢者住宅の現状を紹介いただき、パネルディスカッションでは今後の住環境のあり方や住宅産業の高齢化への対応を探った。

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：「リビオ姫路大津 ブルームガーデンのぞみ野」

第2回：「大阪府摂津市南千里丘地区」

### （4）若手研究会〔開催回数：1回〕

第1回：「大阪ガス実験集合住宅『NEXT21』視察」

第2回：「コトバノイエ視察」

第3回：「TELEVISION HOUSE 佐竹台の家視察」

### （5）幹事会〔開催回数：6回〕

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、企画WGでの企画案件の審議を行った。

### （6）企画WG〔開催回数：6回〕

年度テーマに即した企画・立案を行った。

## 第17年度（平成24年4月～平成25年3月）

年間テーマ：『社会の変化と住宅』

住宅関連産業を取り巻く社会に視点をおき、その立脚点から求められる住環境について議論を展開し、今後の成熟社会における住宅産業のビジョン構築に向けた取り組みを行った。

結果としては、成熟社会における住宅産業は、リフォーム、海外進出、地域住宅、医工連携などを見ても、これまでとは異なる流れ、より多角的な視点が必要になることが改めて認識された。

### （1）フォーラム〔開催回数：4回〕

第1回：『公的住宅団地の再生戦略』～リノベーションと建替の最先端事例を通して

第2回：建設関連産業に学ぶ住宅産業の国際化～中国市場に着目して

第3回：住宅産業の新しい動き、これからの『地域住宅』のあり方を考える

第4回：健康住宅の新潮流～住宅は健康の維持増進に如何に関わりうるか

### （2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ：「被災地のコミュニティの再生に、建築計画・デザインは何ができるか」

被災地のコミュニティの再生において、専門家はフィールドで物を考え、しっかりとした分析を行い、被災地に知見を提供していくこと、あるいは歴史をしっかり伝えること、一方、住民の方が復興に向かって動き出すためのさまざまな手立てを尽くしていくことが重要な要素である。また、住宅産業とコミュニティの再生は、場合によっては相容れないものであるが、何か接点があり、可能性があるとの認識を共有した。

### （3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：滋賀県高島市 針江 生水の郷 各戸の「かばた」見学、山里暮らし交房「風結い」

第2回：大阪市港区 「赤レンガ倉庫」、コーシャハイツ港

### （4）若手研究会〔開催回数：3回〕

第1回：「今後の進め方検討」

第2回：「京都市の町家3軒視察」

第3回：「大阪市の住宅」

### （5）幹事会〔開催回数：6回〕

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、企画WGでの企画案件の審議を行った。

### （6）企画WG〔開催回数：6回〕

年度テーマに即した企画・立案を行った。

### （7）ストックビジネス研究会〔開催回数：6回〕

ストックビジネスの成立する条件について経済的側面や経営的側面から検討を行った。

## ■ 2012年社団法人都市住宅学会賞・業績賞（20周年記念表彰）（社団法人都市住宅学会主催）を受賞（11月24日鹿児島大会にて授賞式）

1996年の創立以来、産学官交流の住宅産業プラットフォームとして、会員向けフォーラム、一般向けシンポジウム、見学会、若手研究会等を組み合わせ長期にわたって継続実施してきたことが、住宅産業界の質的向上と住宅政策課題の社会への周知・共有につながったと評価された。

## 第18年度（平成25年4月～平成26年3月）

年間テーマ：『不動産的側面から見た住宅産業』

これまでの新築重視の住宅政策からストック重視の住宅政策への転換が叫ばれる中、平成25年度は年間テーマを「不動産的側面から見た住宅産業」とし、不動産市場活性化に向けての取り組みや家族像の変容など複雑化、多様化した住宅環境にいかに対応していくか、情報収集活動を通じて、コンセンサスの形成を行った。具体的な活動としてはフォーラム・シンポジウム、視察研修会、研究会（若手研究会、ストック・ビジネス研究会）、幹事会、企画WGを開催した。

### （1）フォーラム [開催回数：3回]

第1回：「中古流通市場における新しい事業スキーム～不動産市場をいかに活用しきるか～」

第2回：「家族像の変容とすまいの変化～シェア居住に着目して～」

第3回：「住まいの最新エネルギー技術を背景として、エネルギーの見える化による、これからの住まいと暮らしを考える」

### （2）シンポジウム [開催回数：1回]

テーマ：「これからの住宅ストック・ビジネスを考える」

本シンポジウムでは、国土交通省の松野氏から、我が国における既存住宅市場の活性化に向けての取り組みについてご紹介をいただいた後、パネルディスカッションにおいて、戸建住宅分野における既存住宅の流通現場から様々な切り口で課題提起を行い、ビジネスの観点から住宅ストックの質への転換や具体的活用方法に関する議論を行った。

### （3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」（大阪市）

第2回：「島原 角屋」「長江家住宅」「平成の京町家」（京都市）

### （4）若手研究会 [開催回数：1回]

大阪府吹田市内のシェアハウスを2件視察

レディスシェアハウス「Beauty&Diet」

「SPACEGREEN SUITA ShareHouse」

### （5）幹事会 [開催回数：3回]

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、企画WGでの企画案件の審議を行った。

### （6）企画WG [開催回数：3回]

年度テーマに即した企画・立案を行った。

### （7）ストック・ビジネス研究会 [開催回数：11回]

ストック・ビジネスが定着する社会的条件や本格的なリフォーム事業が成立する条件について経済的側面や経営的側面から検討を行った。

## 住宅産業フォーラム21 平成26年度 参加申込書

1. 会社名

--

2. 登録委員（2名内1名幹事会委員）

ふりがな 氏名 所属役職 所在地 〒 TEL/FAX / e-mail;
ふりがな 氏名 所属役職 所在地 〒 TEL/FAX / e-mail;

3. 研究委員（若手研究会）

ふりがな 氏名 所属役職 所在地 〒 TEL/FAX / e-mail;
ふりがな 氏名 所属役職 所在地 〒 TEL/FAX / e-mail;

4. 参加費および支払方法

参加費	金 円/年間（消費税込み）
支払方法	A. 一括払い（ ）月頃支払い B. 分割払い [2回] 1回目（ ）月頃、2回目（ ）月頃支払い

5. 請求書送付先（別途必要な場合のみ）

送付先	
住所	
TEL/FAX	

※ご連絡頂いた個人情報は、本事業のご案内及び当財団の関連する講演会等のご案内以外の目的で利用することは致しません。

---

平成26年4月発行

大阪市西区靱本町1丁目8番4号  
一般財団法人大阪科学技術センター  
地域開発委員会 住宅産業フォーラム21  
(事務局：技術振興部)

TEL 06-6443-5320

FAX 06-6443-5319

---



